

【山形県米沢市】

校務D X計画

本市では、国のG I G Aスクール構想に基づき、令和3年度に市内全ての小・中学校において1人1台端末の整備を行った。また、通信ネットワークの構築やクラウドサービスの積極的な活用等の環境整備を行った。教職員においてもI C T機器の効果的な活用を進めており、校務の円滑化や効率化の観点から校務D Xを推進している。

1 校務のデジタル化

本市の小・中学校では全ての教職員に個人アカウントを付与しており、教職員間等における情報の共有においてクラウドサービスを活用することができる。令和6年度は講師を招き、クラウドサービスの活用による業務省力化や利便性向上を図ることを目的とした「校務D X活用研修」を実施した。また、校務支援システム内のグループウェア機能により、各学校間や市教育委員会と学校間における文書連絡や資料送付等を行うことができる。しかし、現在本市で導入している校務支援システムはオンプレミス型であり、今後クラウドベースの校務環境に適合したものへの移行について検討する必要がある。

2 F A X・押印等の従来型業務の見直しについて

緊急連絡時や教育ネットワークの不具合時等、F A Xの方が効率的な場合等を除き、F A X及び押印の原則廃止に向けて検討を進めている。

3 教育系ネットワーク等の現状について

本市における教育系ネットワークは、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と、児童生徒が学習活動で利用する「学習系」の2つに分離しており、相互にアクセス等ができない構成となっている。今後は、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、先進自治体の事例等を参考にしながら、より良い教育系ネットワークの在り方について検討を進めていく。